

# カタリ

学報

第36号



St. Catherine University

聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部

2016. 6. 1



## 聖カタリナ大学第29回

## 聖カタリナ大学短期大学部第51回 入学式式辞

学長 ホビノ・サンミゲル



本日は、春の美しい日にこの優秀な若者の入学式を行うことになりました。春の象徴である桜の花は、いのちの喜びと希望を私たちに伝えてくれます。

そしてこの桜の花は、若者たちの心に抱いている夢と希望を表していると思います。

入学生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご来賓の皆様がたには、ご多忙にもかかわらずこの良き日にご列席くださいましたことを心よりお礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はおめでとうございます。皆様が今日まで、この若い人たちを全面的に支え、励まし、勇気づけてこられたことに対して、心より敬意を表し感謝申し上げますと同時に、お喜び申し上げます。

皆さん、私たちのいのちはこの世界に存在しているものの中で一番大切な美しい宝物です。そして私たちのいのちの目的は幸せになることです。しかし、私たちは生まれた時にいのちを出来上がったものとしていただいていません。私たちはもらった命を完成するために、自分自身で造っていかねばなりません。また、幸せと喜びのあるいのちの目的に達するために自分で育成していく必要があります。そうすることによって自分の歴史を造っていくのです。しかし、生きている間には問題が多くて、い

のちの目的を達成することはとても複雑です。ですから、よりよい人生を送るためにしっかりとした基礎を作っていかなければなりません。そのためによい教育を受けるのはとても大切です。人間は教育を受けるまでは人間にならないとも言われています。

皆さんは、高等教育を受けるために本学を選びました。今日から皆さんの人生の歴史の中に、新しい1ページが始まります。ぜひ、2年、または4年の大学生活を通じて、すばらしい歴史を自分の人生に刻んでいただきたいのです。

本学は、人間の年齢で言えばまだ若いのです。今年度、短期大学は創立50周年になります。そして大学は30周年になります。記念すべき年齢であり、これから100年に向けて新しい歴史を造って行きたいのです。しかし、本学のルーツをたどれば、古い伝統と歴史があります。本学はカトリック聖ドミニコ修道会に属しています。今年、聖ドミニコ修道会は創立800周年を祝っています。ですから本学は800年の伝統の上にたっています。そして、聖ドミニコ修道会の精神を受け継いで、建学の精神として修道会と同じように「愛と真理」をかけています。

修道会の創立者である聖ドミニコは、12世紀末にスペインに生まれ、優れた教育を受け、カトリック司祭になった後、スペインのパレンシア大学の教授として勤めました。しかし、機会があつて2回に

渡ってデンマークとローマに行かなければなりません。その旅を通してヨーロッパをわたりながら状況を見て、思想的に混乱していると分かって、人々に「キリスト的愛と真理」を教えるために、南フランスで修道会を設立しました。その後、修道会は800年の間に全世界に広がって、多くの大学、研究所、学校などを設立してきました。そして、この長い歴史の中で、色々な分野ですばらしい男性と女性を社会に送り出してきています。偉大な宗教家、学者、ローマ法王の他、世界的リーダーを生み出しました。その中で代表的な人物としては聖トマス・アクィナスと聖カタリナです。聖トマス・アクィナスの思想は約750年たった今でも、世界に大きな影響を与えています。そして本学の名前は聖カタリナです。聖カタリナは14世紀イタリアのシエナ市に生まれた偉大な女性です。彼女は学者、神秘主義者、社会福祉の推進者として知られています。神の愛に燃えて、人々の幸せのために自分の人生をささげた女性です。

新入生の皆さん、皆さんはこの素晴らしい長い伝統を持っているこの場所で自分の人生の使命と夢を実現するためによりよい準備をしていただきたいのです。皆さんが本学で学ぶ間に、頭と心とのバランスをとり、学問的にも精神的にも高い人格を形成してください。本学は、カトリックとして心の教育を重視しています。そして聖ドミニコ修道会の大学として、専門的な知識はもちろんですが、精神的

な面と心の面での教育を行うことが特徴です。

皆さん、今日から学生生活を思い切り楽しんでください。本学のキャンパスは自然の中にあります。瀬戸内海から吹いてくる潮風を味わいながら、しっかりと勉学に励んでください。そして、この恵まれた環境の中で、皆さんの人格が完成に向かって成長していくことを期待しています。

本学には家庭的な雰囲気があります。私たちの大学はひとつのFAMILIA家族です。教職員と学生は、親しく交わりながら毎日の生活を送っています。皆さんはこのような家庭的な雰囲気の中で友情を育み、多くの人々との交わりを通じて優れた知識と豊かな心を育ててください。そして、この素晴らしい家庭的な伝統を皆さんの力によって守り続けて欲しいのです。

先ほど、聖書の「知恵の書」が朗読されました。その中で、「知恵はすべての富よりも価値があり、知恵の輝きが消えることはない」と、知恵の尊さと価値について記されていました。真の知恵者は大きな心を持って、愛と真理を追究しながら、人生を送る人です。

皆さん、勇気を持って今日から毎日前進し、知恵ある者になってください。そして愛と真理の子供になってください。本日から皆さんが、聖カタリナ大学の学生としての誇りをもって学生生活を送ること、豊かな知識と豊かな心が皆さんの中に育つことを祈りながら私の式辞とさせていただきます。

## ◆◆ St. Catherine News ◆◆

### ●タウンミーティング～松山市長と話そう～（主催：松山市）を開催

1月15日（金）本学第1会議室において野志克仁 松山市長出席のもと、タウンミーティングが開催されました。

当日は、大学と短大から学生32名が参加し、「学生の視点での松山市を考える～暮らしやすい町づくりに必要なことについて～」をテーマとして松山市長を囲み活発な意見交換が行われました。



### ●愛媛銀行寄付講座・聖カタリナ大学「風早の塾」最終講義

2月5日（金）に愛媛銀行寄付講座「風早の塾」の最終講義（総括シンポジウム）が行われ、今年度の寄付講座の全日程（計15回）を終了しました。

当日は、愛媛銀行ひめぎん情報センター長の益 基氏ますもとをお招きし、学内からホビノ・サンミゲル学長、坂原 明教授、桂 和仁教授が登壇し、メインテーマの「幸福づくりのヘルスプロモーション」にふさわしいシンポジウムとなりました。また、本年度は「超高齢社会にいきる」を主テーマに5月13日（金）より開始し、平成28年1月27日（金）まで計15回開催いたします。

寄付講座は学生の授業として開講されますが、一般市民の皆様も自由に聴講できることになっております。

多くの皆様のご来場をお待ちしております。事前申込み不要。



## ●平成27年度 人間社会学科 卒業研究論文報告会を開催

2月15日(月)に平成27年度人間社会学科の卒業年次学生による卒業研究論文報告会が開催されました。

当日は、口頭発表(社会学系)とポスター発表(心理学系)が2つの教室に分かれて行われ、それぞれの発表では活発な質疑応答がなされました。

人間社会学科4年生にとっては、大学4年間の学習の集大成としての研究成果を発表する大切な機会となりました。



## ●学長と学生との懇談会を開催

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部では、2月16日(火)に平成27年度「学長と学生の懇談会(第15回)」を開催しました。

懇談会では、大学関係者として学長、副学長、人間健康福祉学部長、保育学科長、大学・短大それぞれの学生部長が出席し、学生と軽食をとりながら、リラックスした雰囲気の中で率直な意見交換を行いました。

この懇談会は、学生の声を直接聞くことによって、今後の教育改革や学生支援、さらには大学運営に役立てることを目的として毎年開催しています。学生からは学習環境や授業内容に関することなど、学生生活の中で、学生が感じていることや要望等を、大学に直接伝えることができる有意義な機会となりました。

なお、学生から寄せられた意見・要望等については、毎回学内で検討し、授業や施設・設備の改善等に反映していくことにしています。

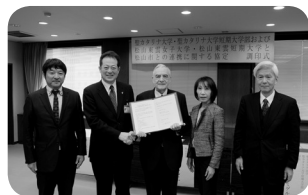


## ●松山市との連携に関する協定を締結

2月16日(火)、松山市役所で「聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部と松山市との連携に関する協定」の調印式が開催されました。調印式では、野志克仁 松山市長とホビノ・サンミゲル学長が協定書を交わしました。

今回の協定は、松山市と聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部が緊密に連携協力することにより、地方創生をすすめるためや、高度化・多様化する地域の課題に対応し、活力ある個性豊かな地域社会を形成・発展させるための協定です。

今後は松山市と連携協力し、大学の知的財産や人材等を積極的に活用することにより、様々な活動に取り組んで参ります。



## ●選手団サポートボランティア養成協力校 委嘱状贈呈式

3月7日(月)、愛媛県庁本館の知事会議室に於いて行われた、第17回全国障害者スポーツ大会の選手団サポートボランティア養成協力校委嘱状贈呈式に、本学から、学長と学生2名が出席しました。

中村県知事から県内の大学・短大・専門学校で構成される養成校20校の代表一人ひとりに委嘱状が手渡され、その後、本学学生2名と他協力校の2名の学生が、養成校の学生を代表して、全国障害者スポーツ大会参加への抱負を述べました。



## ●保育学科「初心者のためのピアノ教室」を開講

3月9日(水)に保育学科の入学前教育として「初心者のためのピアノ教室」を開講しました。

この講座は、A0入試・推薦入試の合格者のうち、ピアノ初心者を対象に、入学までに少しでもピアノに慣れ、入学後の学びに結びつけることを目的に行っているものです。

当日は、保育におけるピアノの重要性や役割について実演を交えて学ぶ講義や、音楽の専門教員による個人レッスンが行われました。サポートスタッフとして参加した在学生との懇談の時間も設け、和やかな雰囲気のまま終了しました。



## ●学内合同企業説明会を開催

3月24日(木)に大学3年生と短大1年生を対象にした、平成27年度学内合同企業説明会を開催しました。

愛媛県内に拠点をもつ様々な業種の企業30社の方々に、事業内容や仕事のやりがいなどについて説明していただきました。学生達は、夢や目標を実現させる就職先を見つけるために、各企業のブースに立ち寄り真剣な様子で説明を聞いていました。



## ●一般財団法人短期大学基準協会による大学評価結果(認証評価)について

聖カタリナ大学短期大学部は、平成27年6月から10月の審査を受け、一般財団法人短期大学基準協会の定める大学基準に適合していると平成28年3月10日付で認定されました。

認定期間は、2016(平成28)年4月1日から2023(平成35)年3月末日までの7年間です。



## ●平成28年度後援会奨励表彰

5月18日(水)、母をたたえる日の行事に併せ、後援会長から後援会奨励金の授与が行われました。この奨励制度は、在学生の学業成績優秀者に後援会から奨励金を授与し、さらなる勉学への励みとしてもらうものです。今年度の表彰者は以下の皆さんです。

谷口 琴未さん(大学2年)	藤原 優歩さん(大学2年)	豊川 諄至さん(大学2年)
加賀山菜美さん(大学3年)	藤堂 歩香さん(大学3年)	水岩 千秋さん(大学3年)
是澤 果歩さん(短大2年)	宮城祐太郎さん(短大2年)	

◆◆平成 27 年度後期行事 (H27.10.1 ~ H28.3.31) ◆◆

月	日	曜	区	行 事	
10	2	金	大	前期卒業証書授与式、教授会、人事委員会、寄付講座②「風早の塾」	
			短	教授会	
	4	日	大	A O入試面接、外国人留学生入試(指定校)、入試・募集委員会	
			短	編入学試験(一般 I ・提携 I ・指定校推薦) A O入試面接、外国人留学生入試(指定校)、入試・募集委員会	
	5	月	大	サルーテ運営委員会	
			短	教授会	
	8	木		パイプオルガン演奏会実行委員会	
	9	金	大	寄付講座③「風早の塾」、まつやまシニアカレッジ、第三者評価委員会	
			短	人事委員会、保育学科会議	
	13	火		図書館委員会	
	14	水		キリスト教研究所フォーラム、キリスト教研究所所員会	
	15	木		理事長講話、フィリピン研修報告会	
	16	金	大	学生生活委員会、(大)学生生活委員会	
			短	寄付講座④「風早の塾」	
	19	月		パイプオルガン演奏会実行委員会	
	20	火	大	大学訪問(聖カタリナ女子高校)、パイプオルガン演奏会実行委員会	
			短	人事委員会	
	21	水	大	F D委員会	
			短	訪問調査[短期大学基準協会] (~10/22)	
	23	金	大	大学祭(~10/25)	
			短	人間社会学科会議	
	26	月		入試・募集委員会	
	28	水		教務委員会、ボランティアセンター運営委員会	
	30	金	大	理事会、人間文化研究所フォーラム、大学見学(上浮穴高校)	
			短	寄付講座⑤「風早の塾」、まつやまシニアカレッジ	
	11	1	日	大	推薦入試
				短	推薦入試
		2	月	大	入試・募集委員会
				短	保育実習[保1] (~11/14)、入試・募集委員会
		4	水	大	教授会、教職課程委員会
短				教授会	
5		木		人事委員会	
6		金	大	大学評価委員会、健康スポーツ学科会議、寄付講座⑥「風早の塾」、まつやまシニアカレッジ	
			短	教授会	
9		月		入試・募集委員会	
10		火		就職委員会	
11		水		キリスト教研究所フォーラム、大学訪問(北条高校)	
13		金	大	将来計画委員会	
			短	教授会、選考教授会、寄付講座⑦「風早の塾」	
17		火	大	課長会議	
			短	保育学科会議	
18		水		教学マネジメント会議	
19		木		S D委員会	
20		金	大	奨学制度運営委員会	
			短	寄付講座⑧「風早の塾」	
25		水		教職課程実地視察	
26		木		保健講話	
27		金	大	評議員会・理事会、人間文化研究所フォーラム	
			短	経済支援学生選考委員会	
28		土		中長期経営計画委員会	
12		1	火	大	学生生活委員会、(大)学生生活委員会
				短	教授会
		4	金		人事委員会、寄付講座⑨「風早の塾」

月	日	曜	区	行 事	
12	5	土	大	推薦入試(一般)、社会人入試	
			短	推薦入試(一般)、社会人入試、入試・募集委員会	
	7	月	大	入試・募集委員会	
			短	教授会	
	8	火		教授会	
	9	水		キリスト教研究所フォーラム	
	10	木		S D委員会	
	11	金	大	教授会、寄付講座⑩「風早の塾」	
			短	人事委員会、保育学科会議	
	12	土		オープンキャンパス	
	13	日	大	社会福祉実習報告会	
			短	風早にぎわいまつり	
	14	月		I R推進委員会、図書館委員会	
	15	火		入試・募集委員会	
	17	木		S D委員会	
	18	金		学内クリスマス	
	19	土	大	精神保健福祉援助実習報告会・連絡会、人事委員会	
			短	理事会	
			短	冬季休業開始	
	21	月		人事教授会	
	22	火		F D委員会	
	24	木		事務職員研修	
	1	6	水	大	財務委員会、奨学制度運営委員会
				短	冬季休業終了
8		金	大	教授会、人事委員会、寄付講座⑪「風早の塾」	
			短	教授会	
13		水		選考教授会	
14		木		ボランティアセンター運営委員会	
15		金	大	タウンミーティング(松山市)、学生相談室運営会議	
			短	寄付講座⑫「風早の塾」、人間社会学科会議、大学評価委員会	
18		月	大	保育学科会議	
			短	幼稚園教育実習[保1] (~1/29)	
19		火		学生生活委員会、(大)学生生活委員会	
20		水	大	キリスト教研究所フォーラム	
			短	人事委員会	
21		木	大	社会福祉学科会議	
			短	人事委員会	
22	金		人間文化研究所フォーラム		
26	火	大	寄付講座⑬「風早の塾」		
		短	教授会		
29	金	大	評議員会・理事会		
		短	寄付講座⑭「風早の塾」		
2	1	月	大	入試・募集委員会	
			短	人事委員会	
	5	金	大	奨学制度運営委員会	
			短	選考教授会、後学期授業終了、寄付講座⑮「風早の塾」	
	6	土	大	教授会、人事教授会	
			短	一般入試	
	8	月	大	一般入試、社会人入試、外国人留学生入試	
			短	教授会、入試・募集委員会、後学期試験(~2/12)	
	9	火		教授会、入試・募集委員会	
	11	木		I R推進委員会	
	12	金	大	学生生活委員会	
			短	教授会、選考教授会、学生生活委員会	
15	月	大	保育学科会議、後学期授業終了		
		短	介護福祉実習[介2] (~3/11)、人間社会学科卒業研究論文報告会		
短	保育学科実習懇談会(東予)				

月	日	曜	区	行 事
2	16	火		第15回「学長と学生との懇談会」
	17	水		キリスト教研究所フォーラム
		大		外国人留学生入試、編入学Ⅱ期、入試・募集委員会、卒業時共通試験(介護)
	18	木	大	介護福祉実習[介3] (~3/9)
		短		保育学科実習懇談会(南予)
	19	金	大	教授会、人事委員会
		短		人事委員会
	22	月	大	教務委員会、精神保健福祉援助実習[社3] (~3/17)
		短		保育実習[保1] (~3/3)
	23	火		F D 研修会
		大		大学評価委員会、社会福祉実習委員会、社会福祉学科会議、人間社会学科会議
		短		保育学科会議
	24	水		理事会
		大		教授会、健康スポーツ学科会議
		短		教務委員会
	25	木		入試・募集委員会
		大		教授会、入試・募集委員会
		短		教授会、人事教授会、一般入試
	26	金		人間文化研究所フォーラム
	27	土		後援会役員会
3	2	水		課長会議
		大		選考教授会

月	日	曜	区	行 事
3	2	水	短	入試・募集委員会、教授会
	3	木		広報委員会、教学マネジメント会議、財務委員会
	4	金	大	教授会、経済支援学生選考委員会
		短		教授会
	7	月	短	保育実習[保1] (~3/17)
	10	木		奨学制度運営委員会
		短		教授会、保育学科会議、入試・募集委員会
	14	月	大	教授会、社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議、入試・募集委員会
	15	火		入試・募集委員会
		大		人事委員会
	16	水		パイプオルガン演奏会実行委員会
		大		第三者評価委員会
	19	土		春のオープンキャンパス
	21	月		春季休業(~3/31)
	23	水		学生生活委員会
	24	木		学内共同企業説明会
	25	金		評議員会・理事会、新任職員研修
		短		保育学科会議
	28	月		課長会議、新任職員研修
	29	火		看護学科棟起工式
	30	水	大	人間社会学科会議

## ◆◆ 平成 27 年度卒業生就職等進路状況 ◆◆

平成28年5月1日現在

### 1. 業種別状況

【聖カタリナ大学】

業 種 / 学 科	就 職 者 数				
	社会福祉	健康福祉	人間社会	合 計	
企 業	建設/製造	0	1	1	2
	情報通信/運輸、郵便	1	0	4	5
	卸売、小売	6	12	9	27
	金融、保険	1	1	1	3
	サービス(宿泊、複合他)	6	4	5	15
	その他(電気、不動産他)	3	4	1	8
	教育、学習支援	0	0	0	0
	医療、福祉	6	1	0	7
医療、福祉	児童福祉施設	2	0	1	3
	老人福祉施設	12	0	2	14
	障害者福祉施設	8	0	0	8
	その他(社会福祉協議会他)	3	0	0	3
公 務	国家公務員	1	0	0	1
	地方公務員	1	0	0	1

就職者数	50	23	24	97	
( 県 内 )	(43)	(16)	(16)	(75)	
( 県 外 )	(7)	(7)	(8)	(22)	
卒業生内訳	就職未定者数	1	0	2	3
	就職希望者数	51	23	26	100
	就職率	98.0%	100.0%	92.3%	97.0%
	進学決定者	2	0	1	3
	家事・その他	6	2	3	11
	卒業者数	59	25	30	114

【聖カタリナ大学短期大学部】

業 種 / 学 科	就職者数	
	保 育	
教 育 , 学 習 支 援	公立幼稚園	0
	私立幼稚園	25
	認定こども園	19
	その他の教育、学習支援業	0
児 童 福 祉	公立保育所	3
	私立保育所・託児所	35
	児童養護施設	4
	その他の児童福祉事業	2
医療、福祉	病院	0
	その他の福祉、介護事業	1
企 業	卸売、小売	4
	宿泊、飲食サービス	0
	金融、保険	0
	その他(製造、サービス他)	3
公 務	国家公務員	0
	地方公務員	1

就職者数	97	
( 県 内 )	(91)	
( 県 外 )	(6)	
卒業生内訳	就職未定者数	0
	就職希望者数	97
	就職率	100.0%
	進学決定者	3
	家事・その他	6
	卒業者数	106

(6Pへ続く)

## 2. 職種別状況

【聖カタリナ大学】

職種 / 学科	就 職 者 数			
	社会福祉	健康福祉	人間社会	合 計
医療ソーシャルワーカー(M S W)	4	0	0	4
精神科ソーシャルワーカー(P S W)	1	0	0	1
相談員(社会福祉主事他)	0	0	0	0
支援員(知的・身障・児童他)	10	0	1	11
介護福祉士, 介護職	14	0	2	16
その他の福祉専門職(社会福祉士他)	1	0	0	1
教員(高等学校のみ)	0	0	0	0
事務	7	3	6	16
販売, 営業	7	14	10	31
その他(サービス, 保安, 生産他)	6	6	5	17
合 計	50	23	24	97

【聖カタリナ大学短期大学部】

職種 / 学科	就職者数
	保 育
幼稚園教諭	40
保育士	48
その他の教員	0
社会福祉専門職業/介護サービス職業	1
事務	2
販売	4
その他(サービス職業/生産工程他)	2
合 計	97

## ◆◆ 平成 27 年度教授会議題 (後期) ◆◆

【聖カタリナ大学教授会議題】

H27. 10. 2 第6回

1. 前期末卒業生について
2. 退学について
3. 休学について
4. 除籍について
5. 科目等履修生(外国人留学生)の履修科目について
6. 聴講生の受入について

H27. 10. 5 第7回

1. 平成28年度AO入試合格者選考について
2. 平成28年度外国人留学生特別入試指定校推薦合格者選考について
3. 平成28年度第3年次編入学国際提携校推薦入試合格者選考について
4. 平成28年度第3年次編入学提携校推薦入試I期合格者選考について
5. 平成28年度第3年次編入学一般入試I期合格者選考について

H27. 11. 4 第8回

1. 平成28年度指定校推薦入試合格者選考について
2. 平成28年度専願特別推薦入試合格者選考について
3. 平成28年度スポーツ特別推薦入試(I期)合格者選考について

H27. 11. 13 第9回

1. 平成28年度学年暦について
2. 退学について
3. 休学について
4. 復籍について
5. 履修科目の登録の特別許可について

H27. 12. 8 第10回

1. 平成28年度一般推薦入試合格者選考について

H27. 12. 11 第11回

1. 学長賞受賞者の選考について

H28. 1. 8 第12回

1. 学則の一部改正について
2. 編入学に関する規程の一部改正について
3. 転学科・転専攻に関する細則の一部改正について

H28. 1. 26 第13回

1. 聖カタリナ大学人間健康福祉学部の改組について

H28. 2. 8 第14回

1. 平成28年度一般入試A日程合格者選考について

H28. 2. 12 第15回

1. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部奨学制度運営委員会規程の一部改正について

H28. 2. 19 第16回

※報告・連絡事項のみ

H28. 2. 24 第17回

1. 卒業判定について
2. 編入学生の既修得単位認定基準の一部改正について

H28. 2. 25 第18回

1. 平成28年度一般入試B日程合格者選考について

H28. 3. 4 第19回

1. 進級判定について
2. 転専攻について
3. 退学について
4. 復学について

H28. 3. 14 第20回

1. 平成28年度一般入試C日程合格者選考について
2. 平成28年度大学入試センター試験利用入試後期合格者選考について
3. 卒業の認定について
4. 復籍について

【聖カタリナ大学短期大学部教授会議題】

H27. 10. 2 第6回

1. 退学について
2. 除籍について
3. 科目等履修生(外国人留学生)の履修科目について

H27. 10. 5 第7回

1. 平成28年度AO入試合格者選考について
2. 平成28年度外国人留学生特別入試指定校推薦合格者選考について

H27. 11. 4 第8回

1. 平成28年度指定校推薦入試合格者選考について
2. 平成28年度専願特別推薦入試合格者選考について
3. 平成28年度スポーツ特別推薦入試合格者選考について

H27. 11. 6 第9回

1. 平成28年度学年暦について
2. 退学について
3. 復籍について

H27. 12. 4 第10回

1. 学長賞受賞者の選考について

H27. 12. 7 第11回

1. 平成28年度一般推薦入試合格者選考について

H28. 1. 8 第12回

※報告・連絡事項のみ

H28. 2. 5 第13回

※報告・連絡事項のみ

H28. 2. 9 第14回

1. 平成28年度一般入試A日程合格者選考について
2. 平成28年度大学入試センター試験利用入試前期合格者選考について
3. 聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部奨学制度運営委員会規程の一部改正について

H28. 2. 25 第15回

1. 卒業判定について

H28. 3. 2 第16回

1. 平成28年度一般入試B日程合格者選考について
2. 平成28年度社会人特別入試Ⅲ期合格者選考について

H28. 3. 10 第17回

1. 除籍について
2. 卒業の認定について

# ◆◆ 平成 27 年度学校法人聖カタリナ学園決算概要 ◆◆

## ■ 1. 資金収支決算

資金収支決算は、資金収入が51億36百万円（予算比+39百万円）、資金支出が52億27百万円（予算比△57百万円）となりました。結果、差額△91百万円を前年度繰越支払資金25億28百万円に加算し、次年度繰越支払資金は24億38百万円となりました。

■資金収支計算書：当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度の支払資金（現金&いつでも引き出すことのできる預貯金）の収入及び支出の態を表します。

(注) 表中数字の単位は、「百万円」です。  
百万円未満は四捨五入して記載しています。

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	増 減 (b)-(a)
前年度繰越支払資金	2,528	2,528	—
当年度	資金収入	5,098	5,136
	資金支出	5,284	5,227
	収支差額	△186	△91
翌年度繰越支払資金	2,342	2,438	95

## ■ 2. 事業活動収支決算

事業活動収支決算は、事業活動収入が38億14百万円（予算比+1億15百万円）、事業活動支出が40億86百万円（予算比+52百万円）となり、基本金組入前当年度収支差額（=事業活動収支差額=会計基準改正前の「帰属収支差額」）は△2億72百万円（予算比+62百万円）となりました。同差額より基本金を組み入れた結果、当年度収支差額は△5億55百万円（予算比+1億28百万円）となり、翌年度繰越収支差額は、△39億80百万円の予算に対し、決算では△38億51百万円となりました。

■事業活動収支計算書（従前の「消費収支計算書」）：当該会計年度の事業活動収入（学校の負債と成らない収入）及び事業活動支出（現預金の支出を伴わない減価償却額や退職給付引当金繰入額などを含む）の内容を表すとともに、基本金組入前及び基本金組入後の収支均衡状態を明らかにします。  
※会計基準の改正に伴い「区分経理」が導入され、収支を経常的収支と臨時的収支に、経常的収支を教育活動収支と教育活動外収支に分けて表示することになりました（右表は総括様式にて表示）。

科 目	予 算 (a)	決 算 (b)	増 減 (b)-(a)
事業活動収入計 ①	3,700	3,814	115
事業活動支出計 ②	4,033	4,086	53
基本金組入前当年度収支差額 (①-②)	△334	△272	62
基本金組入額合計	△350	△284	66
当年度収支差額	△684	△555	128
前年度繰越収支差額	△3,380	△3,380	—
基本金取崩額	84	84	0
翌年度繰越収支差額	△3,980	△3,851	128

## ■ 3. 貸借対照表

貸借対照表は、本年度末（平成28年3月31日）において、資産の部は150億27百万円、負債の部は17億51百万円、純資産の部（正味財産）は132億76百万円（基本金171億27百万円と繰越収支差額△38億51百万円の合計）となりました。

■貸借対照表：一定時点（本学は3月末現在）の資産、負債、純資産（基本金・繰越収支差額）の内容及び在り高を明示し、財産の状態を表します。

科 目	本年度末 (a)	前年度末 (b)	増 減 (a)-(b)
資産の部			
固定資産	12,215	11,975	240
流動資産	2,811	2,836	△25
資産の部合計	15,027	14,811	215
負債の部			
固定負債	1,110	613	497
流動負債	642	651	△10
負債の部合計	1,751	1,264	487
純資産の部			
基本金	17,127	16,927	200
繰越収支差額	△3,851	△3,380	△471
純資産の部合計	13,276	13,547	△272
負債及び純資産の部合計	15,027	14,811	215

### \* 学校法人会計基準について \*

学校法人は、一般事業法と異なり、利益の稼得を目的にした組織ではありません。学生生徒や社会に対して、教育研究活動を通して人材育成という崇高な使命を負った社会性、公共性の高い存在です。しかしながら、「経営」という視点を欠き、過大な設備投資や場当たりの運営を続けていると、収入と支出のバランスを失い、経営基盤の不健全化を招き、場合によっては、存続すら危うくなってしまいます。こういった事態を防ぐために、経営の実態を会計面から適時、的確に把握できるよう、一定の会計処理ルールが定められています。それが、昭和46年に文部省令第18号として制定された「学校法人会計基準」です。国または地方公共団体から補助金の交付を受けている学校法人は、私立学校振興助成法第14条に基づき、「文部科学大臣の定める基準に従い、会計処理を行い、貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類を作成しなければならない」とされています。なお、学校法人会計基準の一部を改正する省令（平成25年4月22日文部科学省令第15号）が平成27年4月1日に施行され、平成27年度以降の予算・決算に適用されることになりました。\*\*\*\*\*

# ◆◆ 人 事 ◆◆

《平成28年2月26日付け》

【退職】  
事務局長 稲葉 益久

訃報 稲葉 益久  
2月26日逝去(68歳)  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

《平成28年3月1日付け》

【新規採用】  
事務局長 内山 光弘

《平成28年3月31日付け》

【退職】

人間健康福祉学部  
教授 高橋 哲夫  
准教授 田中 忍  
講師 今川 弥生  
講師 大西 史晃

保育学科

助教 小幡 章子  
一色 玲子

学生支援課  
事務職員(非) 高橋 典加

《平成28年4月1日付け》

【新規採用】

人間健康福祉学部

教授 関谷 由香里  
教授 西田 佳世

准教授 村岡 則子  
講師 青木 謙介

助教 齋藤 拓真  
保育学科  
助教 松谷 和俊

会計課  
事務職員 大堀 開生

入試課

事務職員 黒河 佐弥子

学生支援課  
事務職員 佐藤 友紀

【昇任】

人間健康福祉学部

教授 徳田 剛  
教授 長尾 由希子  
准教授 森岡 陽介

講師 芳地 泰幸  
保育学科  
教授 松井 寿美子

教務課  
係長 小笠原 由美子

総務課  
係長 中武 勇人

【配置換】

保育学科  
准教授 大野 裕司

就職課  
事務職員 品部 真佑

会計課  
事務職員(非) 木郎 貴子

## ◆◆ 新任教員紹介 ◆◆

①最終学歴 ②現職 ③主要担当科目 ④就任年月日

せきや ゆかり  
関谷 由香里

- ①久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程修了
- ②聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 教授
- ③人間関係論、倫理学概論
- ④平成28年4月1日

にしだ かよ  
西田 佳世

- ①岡山大学大学院保健学研究科博士後期課程単位修得満期退学
- ②聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 教授
- ③発達と老化の理解Ⅱ、加齢及び障害の理解、障害の理解Ⅰ、リハビリテーション論、こころとからだのしくみ
- ④平成28年4月1日

むらおか のりこ  
村岡 則子

- ①久留米大学大学院比較文化研究科後期博士課程単位取得後満期退学
- ②聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 准教授
- ③医療ソーシャルワーク実践論、医療福祉論、社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅲ、社会福祉援助技術現場実習、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ-a・b、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ、社会福祉援助技術論Ⅱ-Ⅲ-a・b、社会福祉調査、基礎演習Ⅱ
- ④平成28年4月1日

あおき けんすけ  
青木 謙介

- ①筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究所スポーツ医学専攻満期退学
- ②聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 講師
- ③健康とスポーツ、スポーツ実技（陸上）、体育実技、トレーニング論、トレーニング実習、トレーニング施設指導実践、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ
- ④平成28年4月1日

さいとう たくま  
齋藤 拓真

- ①茨城大学大学院教育学研究科教科教育専攻保健体育専修士課程修了
- ②聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 助教
- ③スポーツ実技（体づくり運動）、キッズスポーツ指導実践、体育実技、健康スポーツインターンシップ、体育理論、基礎演習Ⅰ-a・b、基礎演習Ⅱ
- ④平成28年4月1日

まつたに かずとし  
松谷 和俊

- ①鳴門教育大学大学院学校教育研究科人間教育専攻幼年発達支援コース修士課程修了
- ②聖カタリナ大学短期大学部 保育学科 助教
- ③教育実習、文学、保育・教職実践演習、保育内容（言葉）、保育内容総論
- ④平成28年4月1日

## ◆◆ 研究室探訪 ◆◆

聖カタリナ大学  
人間健康福祉学部 教授 宮武 信枝



研究室「21世紀カレンダー」の前でゼミのみなさんと

私の研究室の壁には、「21世紀カレンダー 100年の暦」があります。十数年前、大学に着任した頃たまたま実家で見つけたのですが、装飾用の風呂敷らしく、大きな正方形の布に2001年から2100年までのカレンダーが刷り込まれているものです。文字通り「大風呂敷を広げる」ことになってはいませんが、見るたびに、まさに今の学生さん一人ひとりがこの21世紀の主役になることを思い、毎日その未来に向けて皆に関わっていくことを自覚するよう促されます。

今年度3年目を迎えた健康スポーツ学科がスタートした際、新学科に転属しました。私自身はいわゆる文系、本学の共通基礎科目の領域が専門であり、もう体も思うようには動かないものの、はるか昔バレーボールに熱中した記憶が甦ります。すでに前身の健康福祉マネジメント学科以来「健スポ」のキリスト教学の授業を担当してきましたし、宗教学、スペイン語、演習等の授業において、あるいはアドバイザーとして、

自分とは異なる分野で専門的な学びを深めていく学生さんとの出会いは、年ごとに新たな刺激に満ちています。私は「シスター」と呼ばれる身ですので、「わが子」に等しい学生さんがいかに成長し社会へと巣立っていくかを共に探求し、また保護者の方に心を添わせて見守るよう心して祈っていきたいと思います。研究室で学生さんと面談するときは、私もこの年頃にはいわゆる「自分探し」も「自己発見」も経たぬことを思い起こさねばなりません。また保護者の方との面談の際は、私の向き合う学生さんを親御さんがいかに大切にしておられるか、その厳しさと温かさをあらためて肝に銘じています。

私は聖ドミニコ宣教修道女会員であり、専門分野の筆頭は、担当授業にあるとおりキリスト教と宗教文化です。今年は「ドミニコ会創立800周年」を祝っており、本学には、修道会の創立者聖ドミニコ、大学名にいただく保護者シエナの聖カタリナをはじめ、100年の暦8枚分の歴史の中で生きた先輩たちがいることとなります。ですから、着任以来、特に本学のルーツと建学の精神になっているドミニコ会の霊性に関して継続的に研究しています。ここからも、日々学生さんたちと関わる原動力を探り汲み取ることができるとです。また、聖ドミニコの故郷はスペインですので、その母語スペイン語をともに学び、スペインについて紹介し、再び学生さんと一緒に研修旅行ができる機会も準備しています。

保護者の皆さまのご理解とお支えをいただきながら、学生さんと共にこの100年カレンダーの一日一日を生き、本学の歩みを積み重ねていきたいと思っています。

聖カタリナ大学・短期大学部学報  
〒799-2496 愛媛県松山市北条6-6-0 番地  
TEL. 089-993-0702(代)  
http://www.catherine.ac.jp  
編集・発行  
広報委員会  
kouhou@catherine.ac.jp